

食で育む元気で
心豊かに暮らす
“おうみ”

農業体験会

滋賀県

(一社)MOAインターナショナル

1. 国と滋賀県の食育計画

◆国・農林水産省の食育

生活習慣病のまん延と少子高齢化社会を踏まえた第3次食育推進計画には、私たちが健全な食生活を実践し、健康な心と体を育て豊かな人間性を育むための、5つの重点課題が示されています



- ①若い世代の食育 ②多様な暮らしの食育
- ③健康寿命の延伸 ④食の循環と環境
- ⑤食文化の継承に向けた食育の推進

◆健康いきいき21～健康しが推進プラン

県民の健康状態						健康なひとづくり	健康なまちづくり
平均 寿命	男 80.6 女 86.7	健康 寿命	男 70.7 女 72.4	健康 差	男 9.9 女 14.3	健康増進・食習慣の定着 ・運動習慣の定着 ・睡眠による休養 生活習慣病発症予防と重症 化予防	・一人ひとりが人との つながりを深め健康 づくりに取り組む ・健康づくりのボラン ティアの活動 ・健康づくりの企業、 団体の活動
死因 1位	悪性新生物 (ガン)	・40代男性3人に1人が肥満 ・15～19才女性3人に1人がやせ					

◆滋賀県の食育推進計画～食で育む元気でこころ豊かにくらす“おうみ”

健康	子どもから大人まで 健康な食生活の実践	環境	食文化の継承、環境と共生	協働	県民との協働による 食育の展開
	・やせ、肥満者の朝食の欠食の 減少 ・バランスの良い食事をして いる人の増加		・地産地消、学校給食の推進 ・環境こだわり農産物の推進		・食育に関心のある県民の増加 ・食育ボランティア数の増加

2. 農業体験会の目的と目標数

テーマ ～滋賀県食育推進計画より

- ・子供のころから、食に関する知識や食を選択する力を身につける
- ・食を通して生きる力を育み、自然の恵み、人への感謝の気持ちを養う
- ・地域や人との絆を深め、健康寿命につながる食生活の実践を身につける

◆体験会の目標数

具体的な課題	28年 現状	29年 目標
若い世代の参加者を増やす	12名 MOA現状	60名 MOAの目標
国産や地域の食品を選ぶ人を増やす (10%増加する)	77.1% MOAの現状	87.0% MOAの目標

3. 教育ファーム検討委員会

委員会の役割

滋賀県の健康推進プラン食育推進計画（第二次）の目標達成に向かって、農業体験会を計画し、その効果を検証する。

（※農業生産者と指導者、食育関係者の6名と事務局で構成）

◇第1回 教育ファーム検討会（4月27日）

- テーマ・種まきから栽培管理、収穫、試食までの体験会を検討する
- ・体験会の内容と会場の選定



高島市 於:大辻委員宅

◇第2回 教育ファーム検討会（7月9日）

- テーマ・体験会の内容、日時、会場の決定
- ・参加者の募集、チラシ作成、広報について
 - ・参加者のアンケートと実施方法について



高島市 於:大辻委員宅

◇第3回 教育ファーム検討会（10月14日）

- テーマ・参加者の反響、担当者の感想とアンケート集計から体験会を検証した
- ・各委員の意見をまとめ課題を整理し、来年度の方向性を話し合う



高島市 於:アグリッシュパーク

◆会場紹介



ほ場風景



農場主：大辻須恵さん

【所在地】高島市音羽 287

【ほ場名称】ほっと農園

【耕作面積】約 30a

【主な作物】さといも、さつまいも、キャベツ、なす、すいか、ミニトマト、キュウリ、かぼちゃ、ハブ茶、いちじく、かんきつ類、など

【栽培方法】環境こだわり農業～MOA自然農法 昭和 52 年（1977 年）より 40 年実施

4. 農業体験会の開催

- テーマ
- ・種まきと栽培管理、収穫して試食することを体験する
 - ・環境こだわり農業への理解を深め、地域の食材を選ぶようになる
 - ・健康増進、健康寿命につながる食生活を身につける

◆開催一覧表

開催地	開催日	対象者	参加者	指導者・サブ	作業内容
高島市 ほっと農園	7/30	若い世代 親子	35名	4名	人参、祇園豆の種まき
	9/2		27名	4名	人参の間引き、日野菜カブ、小松菜の種まき
	10/14		42名	4名	人参、祇園豆の収穫と試食



7/30 人参と祇園豆の種まき



9/2 人参の間引き、日野菜の種まき



10/14 人参の収穫



10/14 高島市
管理栄養士のセミナー

試食を楽しむ

◆参加者の感想

- ・今まで野菜作りを体験したことが無かったのですが、私も子どもたちにも良い経験となりました。とても楽しかったです（高島市 30代 女性）
- ・うちの子どもは、最初は仏頂面だったのですが、一緒に種まきをしていると、だんだん笑顔が見られるようになり、親子の関係も良くなり、すごくうれしく思いました。
(近江八幡市 30代 女性)
- ・農園にバッタがいたり、野イチゴがあったりと自然の豊かさを感じました。このような農園で体験できて癒されました。自分でも野菜を育てようと思います（大津市 40代 女性）

◆指導者の感想

- ・このような体験会での一日が、参加者の家族にとって楽しく思い出に残り、“また来たい”と思える体験会になって欲しいとの思いで、受け入れました（指導者 50代 男性）
- ・参加者に野菜の魅力を知ってもらいたいと、種まきをした野菜の生育状況をLINEで伝えるようにしました（指導者 50代 男性）

5. 農業体験会の成果とまとめ

滋賀県の食育推進計画の基本理念に示された「食で育む元気でこころ豊かにくらす“おうみ”」に向かって、**種をまく** **世話をする** **収穫する** **試食する** ことを体験する、積み上げ式の体験会を開催しました。

参加者から「あの小さな種が、こんなに大きく育っているのにビックリした」「いつもは野菜を食べないのに、今日はたくさん食べることができた」との報告が寄せられるなど、心や行動、そして食生活にも変化が現れるなど、体験会の目的に叶う有意義な農業体験会となりました。

(1) 数的目標の結果

数値目標	現状	目標	結果
若い世代の参加者を増やす	12名 MOAの現状	60名 MOAの目標	104名

- ◆結果の考察～体験会の主旨や目標、会場の特色を記した募集チラシを作成し、各市の食育ネットワークで若い世代、特に親子での参加を呼びかけた。そして生育状況を LINE で知らせるなどの結果、継続した参加となった。また高島市の管理栄養士のセミナーが参加者の増加の要因となった

国産や地域の食材を選ぶ人を増やす	77.1% MOAの現状	87.0% MOAの目標	10%増加する
外国産より国産を優先する人を増やす	事前調査 86.0%	事後調査 97.0%	11%増加した
地域の食材を意識する人を増やす	事前調査 63.0%	事後調査 71.0%	8%増加した

- ◆結果の考察～体験会の参加の前後で目標とした10%の増加は、おおむね達成できた。琵琶湖に優しい「環境こだわり農産物」を次世代に伝えていくためにも、継続した体験会の開催が必要である。

(2) 農業体験会の波及的効果

- ◆開催地の行政との協働～高島市の健康増進課から管理栄養士が出向しての講座と調理レシピへのアドバイスがいただけた。また教育委員会には小学校への広報等の協力が得られた
- ◆生産者や大学生、流通業者への広がり～こういう体験会なら、ぜひ自分の農場を使ってもらいたいとの申し出や、会場となった農場には、近くの大学生の農業体験会の場として、更に新たな流通業者との話し合いが始まっている
- ◆食育コミュニティの広がり～体験会の主旨に賛同して近くの保育園やレストランの協力、またテント張りや資材の運搬、栽培の管理をしてくれる人など、日常的な協力関係が築かれた

指導者からのメッセージ

- 家族での参加が多く、野菜づくりや土にふれる大切さを子どもたちに伝えたいという親の関心の高さを知ることができました。
また、終了後も栽培についての質問などが多く寄せられ、有機農業のファンも広がる有意義な体験会となりました。

楽しく学んで 楽しく実践!!

食育活動体験会

みなさんのご支援ご協力ありがとうございます。
詳しい内容はHP <http://www.moa-natural.jp> まで
(H30年4月上旬掲載予定)